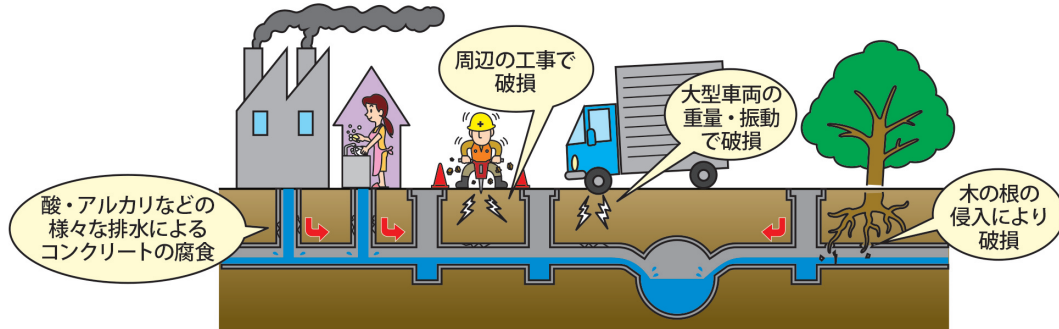




◆コラム1：下水道管路の劣化のはなし

様々な危険にさらされている下水道管路

下水道管路は地中に埋まっており、普段は中を見ることはできませんが、毎日、休むことなく下水を流しています。下水道管路の標準耐用年数は50年程度といわれていますが、古くなった下水道管路は、工場排水や家庭からの下水の影響による腐食や、木の根の侵入や周辺の工事によるひびわれ・破損など、様々な危険にさらされています。



下水道管路が破損すると、そこから地下水や土砂が下水道管路内に引き込まれ、地下部に空洞ができます。この空洞を何年もそのままにしていると、空洞が大きくなり、道路が陥没することがあります。



下水道管路の破損の例
(藤沢市)



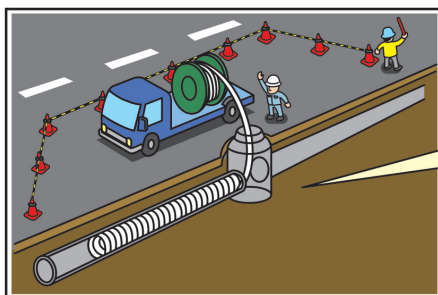
道路陥没の例
(東京都港区) (国土交通省資料)



道路陥没の例
(東京都墨田区) (国土交通省資料)

下水道管路の更生（リニューアル）

藤沢市では、劣化の恐れのある古い管路や緊急輸送道路に埋設されている重要な管路などにテレビカメラを入れて、管路内の腐食や破損の状況を調べています。ここで不具合の見つかった管路はマンホールから更生材（塩化ビニル製のライニング材など）を入れて、腐食に強い塩ビ製管路に更生するなどの対策を実施しています。



傷んだ管路を
塩化ビニル製の
更生材で巻いて
いきます

